

●「各スーパーのサービス ～すべての利用者が利用しやすいスーパーへ～」

知事： スーパーをテーマにしてみようと思ったのはどうしてですか。スーパーへはよく行きますか。

生徒： 親と一緒に行くことが多いです。自分たちが女性ということもあって、将来自分が家庭を持って、家族の健康とかを考えて料理をするにあたり、やはりスーパーを利用することが多くなるのではないかと、一人暮らしをしてもスーパーを利用して生活をしたいと思ったのでこのテーマにしました。

知事： 漠然と使うだけではなくて、自分たちが使っていて、「もっと便利でいいものにするためにどうすればいいだろう」と考えるところがすごいです。自分たちのニーズから考えてものを良くしていくことは、例えば政策でも、商品作りとかどんな面においてもよく使われる手法だと思います。この提案1、「店内で食材を探す手間が省ける。その時期の旬のものを使った料理のレシピを置き、試食品を作る。そのコーナーで関連の材料も陳列」とあります。これは、フェアとかをするときに使われる手法かもしれません。今度、高知県が東京の銀座にアンテナショップを出しますから、こういう手法はぜひ生かしていきたいと思います。

「その時期の旬のものを使った料理のレシピを作る」と書いていますが、新しいレシピを考えることは、その食材の可能性を広げていくことです。例えば、カツオと言ったら昔はたたきだけでした。段々新しく、例えば塩たたきが開発されたりして、それで多くの人がカツオを食べるようになりました。実際は、カツオを使ったイタリア料理のカルパッチョとかいろいろなものに使えるそうです。だから、そういう形で食材の食べ方、レシピを開発していくことは、実は高知県の食材の売れ行きを伸ばすことにつながっていくのではないかと思います。今後、東京でアンテナショップを開くときには、レストラン機能を持った場所も作ります。そこで高知の食材を使った新しいレシピを開発して、多くの東京の人に見せて、感動してもらって、もっと高知の食材を手にももらい、高知県を元気にしていこうと考えているところです。同じような発想だと興味深く思いました。

あと一点、スーパーの悪いところとして「スーパーが遠い利用者には不便」と書いています。今、「高知県の中山間地域に住んでいる人たちの暮らしをどうやって守っていくのか」が大きな課題になっています。中でも山の奥の方には、例えば水道がないところもありました。簡易水道をつけてだいぶ良くなっていますが、買い物がつらいとか、病院に行くのが大変だという課題がたくさんあります。皆さんが行かれたスーパーは、移動販売車を作って中山間地域へ車で売りに行って来ています。それによって、スーパーがない地域の皆さんが買い物できたりしています。地域によっては、町にある商店の人が軽トラに品物を積んで、それぞれの地域に運んで、皆さんの買い物を支えているところもあります。でもなかなか大変で、これをどうやって維持するのは今後の大きな課題になっています。段々高齢化や過疎化が進み、車で遠いところまで買い物に行くのがきつくなっている人たちがたくさん住んでいる集落も高知県

の中にはたくさんあります。スーパーそのものの話ではないかもしれませんが、そのようなことも考え続けてもらえればと思います。

教育長： 女性らしいテーマ選びで、将来自分が主婦になったときを意識して調べたと思います。一つのお店だけではなく、2店舗で比べてみたのは良かったと思います。「提案の前段にお店の人に聞きました」ということですが、提案1、提案2を持ってお店の人に聞きに行きましたか。

生徒： 実際にまだお店の人には言ってないです。

教育長： 言ってみたらどうでしょうか。提案1は、お客さんがもっと便利になるように魅力アップすることで、結構おもしろいと思います。提案2は、なぜアクセサリショップやファーストフード店が併設されていないのでしょうか。スーパーの人がどういう戦略を立ててお店を運営しているのかを聞いてみたらおもしろいのではないのでしょうか。私が想像するに、皆さんは学生さんですから、「子供や学生など若い人がもっと行けるようなお店になったらいい」と思っていますよね。お店の人はそう思っているのでしょうか。つまり、若い人来てもらうためにファーストフード店を作ろうとすると面積が要ります。その面積の中で、今とファーストフード店を作った方とどちらの売上げが多いのでしょうか。何かの考えがあって、スーパーはこのような作りになっているのかもしれないです。もう一回聞いてみたらいいですね。おもしろいテーマでした。